

# 令和4年度 第2回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会

## 議 事 録

日 時：令和4年10月6日（木） 午前10時30分～午前11時40分

会 場：本郷新記念札幌彫刻美術館 本館 研修室

出席委員：児玉聡夫（宮の森明和会会長）、高橋大作（札幌彫刻美術館友の会会長）、國松明日香（彫刻家）、渋谷一典（札幌市立三角山小学校校長）、森田由香理（札幌市立大倉山小学校PTA）、木戸拓史（札幌市市民文化局文化部文化振興課長）、吉崎元章（本郷新記念札幌彫刻美術館館長）以上7名

欠席委員：なし

所 管 課：菅原真二（札幌市市民文化局文化部文化振興課振興係長）、平将志（同文化振興課振興係事務職員）

事 務 局：岩崎直人（本郷新記念札幌彫刻美術館業務係長）、三枝大悟（同業務係事務職員）、平井菊花（同業務係事務職員/学芸員）

次 第：1 開会

2 議事

(1) 令和4年度事業経過報告（4～9月）

(2) 令和5年度事業企画状況

(3) その他

### 3 閉会

当日配付資料：

- ・資料1 「本郷新記念札幌彫刻美術館 令和4年度事業経過報告」
- ・資料2 「本郷新記念札幌彫刻美術館 令和4年度入館者アンケート集計」  
(～2022年8月)
- ・資料3 「本郷新記念札幌彫刻美術館 令和5年度事業企画状況」
- ・令和4年度開催事業チラシ3種  
(「藤川叢三展」、「上遠野徹」展「サンクスデー」)

議事内容：

(1) 令和4年度事業経過報告(4～9月)

事務局より配付資料に基づき、令和4年度上半期の事業についてアンケート集計の結果も含めて報告を行った。

(2) 令和5年度事業企画状況

事務局より配付資料に基づき、令和5年度事業の企画状況について説明を行った。

(3) 意見交換

①今年度事業について

高橋委員：事業数に感心する。

吉崎委員：実をいうと、事業数は少し抑え目にしている。個々の質を高める方向へとシフトしている。

國松委員：私も同じ意見で敬意を表する。開催中の「上遠野徹」展はもちろん、その前展において、記憶から遠ざかっていきそうだったすばらしい彫刻家・藤川叢三に焦点が当てられたのは大変意義深いことである。

森田委員：このようなすばらしい美術館があるというのは本当に幸せなこと。子どもたちが普段の生活の中で芸術を楽しむ、鑑賞する心を育てることの橋渡しができたらと思う。

児玉委員：町内会としても、サンクスデーというのは、本当にありがたい。連携してやっていけたらとも思っている。

渋谷委員：3年生の総合的な学習の時間で継続してご協力をいただいているところで、改めて感謝申し上げます。当校のように文化芸術をテーマにした総合的な学習の時間をできる学校はほとんどなく、当校ならではの学習の特質である。

木戸委員：札幌市文化芸術鑑賞促進事業により「藤川叢三展」もたくさん来館者があった。藤川の初期から晩年まで変遷を追いながら展示されていて、コンパクトながら非常に内容の濃い企画であったし、「上遠野徹」展も模型や図面などが非常にわかりやすく展示をされていてすばらしい。これからも期待する。

吉崎委員：「上遠野徹」展では、記念館の建築において最大の特徴である贅沢な造りの階段が、仮設壁で覆われているのは残念という建築家たちからの意見を受け、壁の撤去を市が快諾してくれた。さらに、開けた側に手すりがないことか

ら、安全な通行は困難と見なされたものの、子どもに限って監視を付けることを条件に通行を認可してくれた。札幌市の柔軟な姿勢に感謝する。

## ②次年度事業について

國松委員：石彫家・山本一也は、本郷先生のモニュメントの台座を作っていた。

北海道では数少ないこの石彫家を弟・山本良鷹（道展）が健在の内に紹介できないか。

高橋委員：来年度事業の「彫刻VS.工芸」というのに興味がある。学生時代、民芸運動に関わっていたことがあり、濱田庄司先生と色々議論したことがあった。

## ③その他

國松委員：門戸を開き、近隣住民に向けて本館前庭を広く開放しているようなメッセージを掲示板に貼り出していただき、とてもうれしく思っている（昨年度同委員会にて提案）。

## （４）その他

①今年度上半期において行った施設・設備の修繕（特に冷房の故障）について施設管理担当の三枝職員より説明を行った。

②今年度下半期の展覧会（「New Eyes 視線のはなし」展）の準備状況について学芸担当の平井職員より説明を行った。

③次回協議会は令和5年3月10日（金）午前10時30分～11時30分を予定。